

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番 27	福山市立駅家南中学校
最終更新日		2025 年（令和 7 年）4 月 1 8 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信
○各校の授業を交流し、確かな学力を定着させるための授業改善を工夫して進めてもらいたい。 ○不登校児童・生徒数と学校に来れない現状の把握、取組を今後とも大切に取り組んでほしい。 ○自立した子どもの育成を目指す時、挫折した時どうサポートするかを考えておく必要がある。	○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上、学力の定着に課題がある。 ○学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化したりする児童生徒が増えた。 ○小中ともに長欠・不登校の児童・生徒は、一定数いるが、特に中学校において減少してきた。引き続き、個の支援を丁寧に行っていく。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒
		中学校区として 統一した取組等	○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに、学力の定着・向上を図る。 ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。 ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

III 自 校

ミッション				思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信			
未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。							
学校教育目標							
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成							
現 状							
○生徒アンケート（肯定的解答率 単位％）							
授業はよくわかる		87	学校へ行くのは楽しい		87		
授業で考えることは面白いです		97	みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている		91		
授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている		88	今学期図書館を利用した		86		
○令和6年度全国学力・学習状況調査結果 （ ）は市平均 単位％							
国語	22 (R4)	23 (R5)	24 (R6)	数学	22 (R4)	23 (R5)	24 (R6)
	66 (67)	64 (66)	52 (55)		44 (45)	39 (45)	48 (48)
○体力運動能力調査				英語			
県平均以上の項目数 18項目中5項目				34 (38)			
めざす子ども像							
めざす授業の姿							

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力での 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力での 評価	達成 評価	総合 評価
1	生徒が主体的 に学ぶ授業の 創造と学力向 上	★	継続	生徒が授業の中 で「教科の面白 さ」と「できる実 感」を感じ、自信 と意欲を育む。	・教科の面白さや 魅力を引き出す教 材研究を深める。 ・学びの過程で「わ かる」「できた」と いう体験を重ねる。	生徒アンケート 「授業はよくわ かる」の肯定的評 価を前年度以上 にする。 (前年度：87%)								
			新規	自己調整学習の 充実を図り、学び に向かう力を育 む。	中学校区で家庭学 習、メディアリテラ シーの実態調査、分 析を行い、家庭学習 の習慣づけやメデ ィアとの適切な関 わり方についての 指導・啓発活動を展 開する。	家庭学習時間の 増加、およびメデ ィア時間の適正 化が見られる生 徒を、当初の調査 値と比較して 80%以上にする。								
2	生徒が「学校 へ行くのが楽 しい」と感じ ることができる 学校の創造		継続	生徒が自ら課題 を発見し、仲間と 協力して解決し ながら、自己指導 力を育む。	特別活動におい て、生徒が話し合 いや合意形成を 通して主体的に 行事に取り組む 機会を充実させ、 自己指導力の育 成を図る。	生徒アンケート 「学校へ行くの は楽しい」の肯定 的評価を前年度 以上にする。 (前年度：87%) 不登校生徒数を 前年度以下にす る。(40名)								
3	元気・笑顔で 勤務する教職 員の育成を通 じた学校組織 力の向上		継続	教職員が主体性 を発揮し、学年や 分掌において、新 たなことに挑戦 できる学校づく りを推進する。	教職員同士の生 徒の姿を中心と したコミュニケ ーションの活発 化を図る 各部会、学年会の 活性化を図る。	100NEN 教育ア ンケート「仕事に やりがいを感じ ている」の“あて はまる”を昨年度 以上にする。 (前年度：60%)								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。